【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 新出漢字の小テストでは、正答率が以下の通り推移している：1 回目 57%、2 回目 58%、3 回目 60%。1 学期期末考査における「思考・判断・表現」の問題の正答率は 55.3%、「知識・技能」の問題の正答率は 53.8%である。</p> <p>〈8 学年〉 1 学期期末考査では、正答率が 8 割以上の生徒が全体の 17%、7 割以上が 31%であった（平均得点 55.4 点）。「思考・判断・表現」の問題の正答率は 55.0%、「知識・技能」の問題の正答率は 52.3%である。</p> <p>〈9 学年〉 「全国学力・学習状況調査」の結果、本校の平均正答率は東京都の平均に対して 1 ポイント低く、全国の平均を 1.9 ポイント上回っていた。短答式および記述式の問題の正答率は、いずれも東京都および全国平均を大きく上回ったが、「情報と情報の関係の理解」や「情報を要約する問題」では、都や全国の正答率を下回った。無回答が東京都および全国の平均よりも少ない。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7 学年〉 語彙や漢字など「知識・技能」の指導を充実させるとともに、指導方法の改善が求められる。</p> <p>〈8 学年〉 語彙や漢字など「知識・技能」の指導を強化し、指導方法の工夫を図る必要がある。</p> <p>〈9 学年〉 「情報と情報の関係を理解すること」や「目的に応じて必要な情報に着目し、要約すること」に課題が見られる。観点を明確にし、複数の文章を比較しながら読む学習活動を意図的に設定するなど、指導方法の工夫が必要である。全体の RST 結果から、「係り受け解析」や「照応解決」などの領域が偏差値 50 を下回ったことが今年度の課題である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語彙や言葉に関する知識を増やすために、新出漢字の学習に加えて定期的に小テストを実施する。また、作文活動において、漢字や既習表現を積極的に使用させ、定期考査でも同様の出題を行うことで語彙や知識の定着を図る。 ・ 照応解決能力を向上させるため、指示語の指す内容や図表・グラフと文章を関連付けて読み取る課題を意識的に取り入れる。

【社会】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 1 学期期末考査では、「知識・技能」で 8 割以上正答した生徒は 39%、5 割以上は 74%。「思考・判断・表現」では 8 割以上が 19%、5 割以上が 51%である。観点別では、「知識・技能」が平均 66%、一方「思考・判断・表現」が 54%であり、後者に課題が多いことがわかる。</p> <p>〈8 学年〉 「知識・技能」で 8 割以上が 31.1%、5 割以上が 63.2%。「思考・判断・表現」で 8 割以上が 16.9%、5 割以上が 55.6%。観点別では、「知識・技能」が 52.8%、一方「思考・判断・表現」が 33%であり、両者において定着が十分でない生徒が多い。</p> <p>〈9 学年〉 「知識・技能」で 8 割以上が 36%、5 割以上が 73%。「思考・判断・表現」では 8 割以上が 12%、5 割以上が 65%。観点別では、「知識・技能」が 63%、一方「思考・判断・表現」が 56%で、こちらも後者に課題が見られる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意義や相互関係の理解を深め、知識の定着を図る必要がある。 ・資料から有用な情報を選択し、効果的に活用して自分の言葉で表現できる力を育成することが求められる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明示し、振り返りを強化する。キーワードを用いた短い振り返りを行い、授業内容の定着を促進する。 ・ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学べる環境を整備することで、より深い学習を促す。 ・多様な資料を提示し、資料やグラフの読み取りを通じて興味・関心を高め、思考力を強化する。 ・討論や意見共有の場を提供し、教科書や資料を活用して友達と意見を共有する時間を設ける。 ・公民的分野での実例学習を行い、身近な社会の話題を取り上げて具体的事例に基づいて考察・意見発表する機会を増やす。

【数学】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 1 学期期末考査では、正答率が 8 割以上の生徒が 15%、平均得点は 51.08 点である。知識・技能を問う問題の正答率は 54%、思考力を問う問題は 45%である。授業では、自分の考えを説明しようとする姿勢が見られるが、適切な用語を用いて説明できる生徒は少ない。既習事項を活用し、自分の考えを正確に表現する力の向上が課題である。</p> <p>〈8 学年〉 1 学期期末考査では、正答率が 8 割以上の生徒が 17%、平均得点は 50 点である。基本的な知識・技能を問う問題の正答率は約 60%、思考力を問う問題は約 42%である。学習意欲は高く、自主的に基礎的な知識・技能を習得する姿勢が見受けられる。しかし、身に付けた知識を活用して思考し、表現する力を試験で発揮することが課題である。</p> <p>〈9 学年〉 全国学力・学習状況調査の結果から、『数と式』の「式による説明」に課題があることが分かった。文字を用いて式を変形する過程を理解し、式を表現する意義を実感する必要がある。また、定期考査の知識・技能を問う問題の正答率は 64%、思考力を問う問題は 46%である。基礎的な知識の定着を図り、その知識を活用した問題解決や自分の考えを表現する問題を重点的に指導する必要がある。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は「勉強には自分から進んで取り組んでいる」との質問に対し、全国平均を上回る学習意欲を示している。しかし、文章を読み解く問題や複雑な思考を要する問題の正解率は50%に満たず、改善が必要である。 ・思考力・判断力・表現力の育成が課題であり、継続的な学習習慣が不足している可能性がある。 ・生徒が互いに学び合い、「数学的な見方や考え方」を育む態度を養うことが求められている。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートでは「話し合い活動を増やしてほしい」「振り返りの時間を延ばしてほしい」という要望が多く寄せられている。課題解決のため、個人やグループでの思考を促進し、考えを伝え合う場を設ける。 ・各授業で学習内容を振り返り、知識の定着度や学習方法の改善を図る時間を確保する。 ・生徒が主体的に活動する姿勢を身に付けることで、全国学力調査の無回答率を低下させることが期待される。 ・特に少人数習熟度別授業の発展コースでは、問題解決学習や協働学習を多く取り入れる。 ・生徒の振り返りや評価を通じて、指導内容や出題の適切性を見直し、授業改善に努める。

【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 1 学期期末考査では、「知識・技能」の問題で 5 割以上正答した生徒は 73%、8 割以上は 49%。「思考・判断・表現」の問題では 5 割以上が 75%、8 割以上は 38%であり、「思考・判断・表現」に課題をもつ生徒が見受けられる。</p> <p>〈8 学年〉 「知識・技能」の基礎知識や実験操作を問う問題の正答率は 69%、一方で科学的思考を問う問題の正答率は 48%である。多くの生徒は基礎知識や実験方法を理解しているが、科学的な思考力や表現力に課題がある。</p> <p>〈9 学年〉 基本的な知識や実験操作の問題の正答率は 68.5%と高いが、科学的な思考や表現力を問う問題では 56.6%にとどまる。知識を活用して考え表現する力が十分に身につけていない。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7 学年〉 実験結果を順序立てて考察し、自ら考える時間を確保する必要がある。また、学んだ知識を日常生活に結びつけて振り返る指導が求められる。</p> <p>〈8 学年〉 「思考・判断・表現」の観点で評価 C の割合が高く、科学的な用語を用いた説明力に課題がある。班活動を通して科学的な考えを深め、文章表現力を養うことが重要である。</p> <p>〈9 学年〉 授業アンケートでは評価規準（基準）が不明確との意見があり、事前に評価規準（基準）を明示し、生徒が自己評価や振り返りを行えるようにすることが課題である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>〈7 学年〉 基礎的な計算力を強化するため、授業中に計算問題の時間を設ける。また、実験のねらいを明確にし、結果に基づいて考察し適切な用語で表現する力を育てる。振り返りを通じて日常生活との関連を強調し、理解を深める。</p> <p>〈8 学年〉 協働学習を促進し、考察する時間を十分に確保する。班活動を通じて理解を深め、最終的に振り返りを行う。科学的な用語を用いて表現する機会を増やし、「思考・判断・表現」力の向上を図る。</p> <p>〈9 学年〉 知識を活用し表現する力を養うため、「話し合い」「実験結果の分析」「振り返り」の時間を充実させる。ICT の活用や発表の時間を授業に組み込み、時間を確保する。</p>

【音楽】

■生徒の状況	全体的に意欲的な生徒が多く、授業への取り組みは良好である。しかし、1学期の授業アンケートでは、「理解したことを活用し、自分で考え、根拠をもとに自分の考えを述べたり書いて発表したりする活動」について「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒が27.7%おり、改善の余地がある。また、「クロームブックの活用」に関しては「どちらかというと思わない」「そう思わない」と答えた生徒が34.4%であり、ICT活用の工夫が必要である。表現と鑑賞の学習活動では特に歌唱活動への積極的な参加が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・音楽の知識や技能を実際の音と結びつけ、表現の意識を高める必要がある。・ICT機器を活用し、わかりやすい授業を工夫することが求められる。・生徒同士の意見交換を通じて主体的な学習活動を促す授業展開が必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・音楽に関する基礎的な知識を、音楽活動やワークシートを用いて指導し、理解を深める。・ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用し、授業の充実を図る。特にクロームブックを用いた活動を取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増やす。・話し合い活動を取り入れ、生徒同士の意見交換を通じて自分の考えを広げ、学習を深める。・音楽活動を通じて「聴く」ことの大切さを伝え、鑑賞活動が表現活動の向上に寄与することを促す。

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 生徒は意欲的に授業に取り組んでいるが、集中力には個人差があり、課題や制作手順の理解が難しい生徒もいる。道具の扱いや片付けは定着しているが、技能や発想力には差がある。作品鑑賞や相互鑑賞の際には、自己の考えを深めたり文章で表現する力が不足している。定期考査の平均点は 43 点と低く、基礎知識の定着に改善の余地がある。</p> <p>〈8 学年〉 生徒は作品制作に意欲的に取り組んでおり、課題の理解には個人差が見られるが、ワークシートや手本を活用して制作の流れを理解する生徒が多い。作品鑑賞や相互鑑賞では自己の考えを深める力や文章表現に差がある。定期考査の平均点は 44 点であり、基礎知識の定着と学習方法の改善が求められる。</p> <p>〈9 学年〉 生徒は作品制作に非常に意欲的で、集中力や聞く力が高い。技能面では目標達成に向けた意欲が強く、丁寧な制作が見られる。ただし、発想が苦手な生徒も見られ、鑑賞活動においても自己の考えを深めたり文章で表現する力には個人差がある。定期考査の平均点は 50 点で、学習方法の改善が課題である。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の進度に個人差があり、生徒の理解度に応じた指導が求められる。 ・発想力や表現力において、生徒間で能力の差が大きく、個別指導や支援が必要である。 ・言葉での表現力が不足しており、作品鑑賞や相互鑑賞の際に自己の考えを深めたり、文章で表現する力を向上させる指導が重要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書や掲示物、制作手順を記載したワークシートを活用し、制作手順を明確にする。 ・ワークシートや板書を通じて、完成までの見通しを確認し、生徒に持たせる。 ・資料集や教科書にラインマーカーを使用して重要な部分を強調し、知識の定着を図る。 ・発想力を広げるためにマインドマップなどを用いて、言葉を書き出してつなげることで発想の広がりを促進する。 ・鑑賞活動では、生徒同士の意見を見たり聞いたりする場を設け、互いの表現力を高める発表の機会を作る。

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<p>本校の生徒は、全国平均を上回る体力合計点を示している。特に、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び、立幅跳びの測定種目で高い成果が見られる。しかし、女子の50m走の成績がやや低い傾向がある。また、近年では保健体育の授業以外で運動をしない生徒が増えており、体育の授業内での運動機会の確保と補強運動の継続が重要である。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に配慮しながら、体力や運動能力の向上を図る指導方法と内容を充実させる必要がある。 ・生徒が深い学び合いを実現できるよう、基礎的な知識を向上させることが求められる。 ・学んだ内容を実際の運動に結びつけ、ポイントを意識して体を動かし、適切に説明できる力を育成することが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動に瞬発力や全身持久力を向上させるための補強運動を取り入れ、体力の向上をめざす。 ・話し合いや教え合いの場面を設け、個人やグループで課題を見つけ、根拠をもとに発表し考えを共有することで、協働的な学びを促進する。 ・教員による明確な指導を通じて、イメージ同定や具体例同定の力を高め、生徒が体を通じて適切に表現できるようにする。 ・クロームブックを活用して、生徒自身が運動を視覚的に振り返り、課題を発見し改善のための練習方法を考える力を育成する。

【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<p>【技術】 生徒は意欲的に授業に取り組んでおり、内容をよく理解している。しかし、答えのない問題に対して自ら考える姿勢が弱く、主体的に問題解決に取り組む力が課題である。実習では技能の定着が見られるが、発展的な技能の習得には至っていない。</p> <p>【家庭】 〈7 学年〉：多くの生徒が積極的に課題に取り組んでいるが、コロナ禍の影響で小学校での実技授業が実施されなかったことから、実習の基本的なスキルが十分に定着していない。 〈8 学年〉：生徒は意欲的に課題に取り組んでおり、特に「食」に関する調べ学習で高い成果を上げている。 〈9 学年〉：生命の誕生に関する学習では命の大切さを考え、幼児向けのおもちゃ作りでは丁寧な制作が見られる。やるべき課題を捉え、目標をクリアしようと努力している。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>【技術】 ・授業内容の理解はあるものの、答えのない問題に対して主体的に考える姿勢が不足しており、問題解決力の向上が求められる。 ・発展的な技能の習得に向けて、さらなる挑戦が必要である。</p> <p>【家庭】 〈7 学年〉：授業中は静かに取り組むが、実習やワークシートに移行する際に説明への集中が不足しているため、注意を促す必要がある。 〈8 学年〉：授業内容の理解に努めているが、学校での学びを家庭での経験と結びつける指導が求められる。 〈9 学年〉：目標達成に向けた姿勢は良好だが、技能面での繰り返し練習が不足しているため、さらなる指導が必要である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>【技術】 ・答えをすぐに教えるのではなく、考える材料や時間を増やし、生徒が自ら問題解決に至る過程を考えるように指導する。 ・生徒の進度に応じて、より高度な技能に挑戦できる機会を提供し、その技能の定着を図る。</p> <p>【家庭】 ・実体験が乏しい生徒が多いため、家庭での手伝いを推奨し、生活に必要な知識と経験を授業を通じて伝えていく。 ・課題が早く終わった生徒が遅れている生徒をサポートする場面を多く取り入れ、互いに学び合う機会を増やす。</p>

【英語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 1 学期期末考査では、「知識・技能」の正答率が 57.6%、一方で「思考・判断・表現」の正答率は 66.6%である。小学校でのコミュニケーション活動が表現力向上に寄与しているが、単語や英文を書く力の習得には課題が残る。</p> <p>〈8 学年〉 英単語や英作文の小テストでは正答率が 66.5%、定期考査において「知識・技能」の正答率が 58.5%、一方「思考・判断・表現」の正答率は 54.6%である。特に英作文の正答率が 43.6%にとどまり、文章表現に課題がある。</p> <p>〈9 学年〉 1 学期期末考査では、文法や長文読解などの「知識・技能」の正答率が約 57%、思考・判断・表現に関する問題では約 60%である。生徒は基本的な文法は習得しているが、内容の理解や表現力の面でさらなる強化が必要である。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7 学年〉 単語を正確に書く力の向上が最優先課題である。また、小学校で系統的な文法学習が行われていないため、文法を意識して英語学習を進める意識の強化も重要である。</p> <p>〈8 学年〉 英作文における正答率が 43.6%にとどまっていることから、英語のルールを理解し、状況に応じた適切な表現を使う力の向上が必要である。</p> <p>〈9 学年〉 授業内容の定着を図り、英語の概要を理解し、自分の考えを英語で表現する力や、まとまりのある文章を正確に読み取る力の向上が課題である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>〈7 学年〉 フォニックスを活用し、発音と文字を関連付けて単語を覚えさせる。また、小学校で学んだ表現活動を基に、文法的な説明を加え表現力の幅を広げる。</p> <p>〈8 学年〉 ICT を活用し、英語のアウトプット機会を増やす。また、話した内容を文章としてまとめる活動を行い、表現の定着を図る。授業の振り返りでは、生徒自身が使えるようになった表現や学びを共有し、相互にフィードバックを行うことで、自己評価と他者評価のスキルを高める。</p> <p>〈9 学年〉 長文読解の訓練を行い、段階的に難易度を上げたテキストを用いて理解を深める。ディスカッション活動を通じて、自分の意見を英語で表現する機会を増やし、全体的なコミュニケーション能力を向上させる。文法や語彙に関しては、実践的な課題を設定し、学んだ内容を応用できる力を育成する。</p>